清瀬市市制施行５０周年記念事業に関する意見聴取シートまとめ

資料３

（方針について）

* 過去を振り返るだけでなく、都心に近い地の利を生かす、スポーツ、文化の催し
* 市民まつりかなんかで少しイベントやるなど、市民向けに『きよせPride』を持ってもらう。『きよせPride』を持ってもらうには、他市とは違うユニーク性や優位性などが示せればわかり易い。
* 如何に今後の発展に繋ぐ企画を考えていきたい。
* 清瀬市の５０年を過去現在未来の３つのカテゴリーで区分
* 過去を振り返ることから始まるも、未来志向の記念事業

（記念事業内容等アイデア）

* 清瀬市立の小学校と中学校、教育委員会、学校支援本部と連携した記念事業
* ２０２０年の清瀬から、未来に生きる清瀬の子どもたちへのメッセージ、予算をかけずにできる、今の時代に生きる清瀬の人たちから、次世代に言葉と想いを伝える
* 小中学生を含む市民に清瀬に関する作文や詩、俳句などを作ってもらい、その入選作品を発表するとか、合唱や合奏、ブラスバンドやコロポックルで活動しているアマチュアバンドの演奏など
* 「５０周年清瀬タウンおにごっこ・タウンオリエンテーリング・きらりスタンプラリー」
* ５０年後の清瀬～子ども未来絵画展」
* 市内小中学校生徒の５０周年記念校章人文字航空写真
* 野外でのキッズ対象のイベント企画（ころぽっくる）
* コミュニティーバス「ポンチョ」、及び清瀬市保有車両へのロゴマーク等のラッピング企画
* 「清瀬５０周年記念切手発売～みどりの清瀬～」
* ５０周年記念住民票、婚姻届け等公的書類の作成
* ５０周年記念マンホールカードの作成
* ５０周年記念ご当地ナンバープレートの作成
* ５０周年記念公用封筒の作成
* 農産物直売所５０周年ラッピング
* 西武鉄道清瀬駅発車メロディー、西武バス５０周年記念オリジナルアナウンス
* ５０周年記念植樹
* ピンパッチ、記念グッズの作成
* 観光マップ、まち歩き地図の作成
* 市内商店の５０周年コラボ商品の開発、販売
* 清瀬市内の文化財等PRスポットを市民参加で巡る「まち歩き」や「ウォークラリー」企画
* 清瀬の歴史を知る機会として、清瀬市郷土博物館などと連携した記念事業
* 郷土博物館での「市制後の清瀬市の歴史」の展示コーナー企画
* けやきホール内の清瀬歴史ビデオ更新
* 市制施行５０周年近隣市との協働イベントの実施
* 友好都市との交流
* 新庁舎共用開始に合わせたイベントの実施
* ５０周年を記念したフォークソングライブ
* 学生や市内団体による吹奏楽イベント
* 清瀬市知識王競技大会（現代清瀬市に関する知識競技）企画
* 市内企業の施設見学やイベントの開催
* 清瀬市タイムカプセル企画
* 野外でのイベント企画（知識王競技大会、芸能人等の盛り込み）（ひまわり）
* 市企画事業TV公開番組「出張！なんでも鑑定団in清瀬」「NHKのど自慢」企画
* 清瀬市出身芸能人・有名人・著名人・タレント「中森明菜、堀北真希、釈由美子」の出演、TV企画とコラボ企画
* 「これからの時代を生きる君たちへ～是枝監督からのメッセージ～」
* 清瀬出身の有名人になんかしらのプロモーションなんかが良いかなと思っています。金銭面で難しければメッセージ
* 市民公募(市民自ら企画実施するイベント等で助成金有)企画(市内の各種関係団体及び団体内単独実施企画含む)
* 清瀬には市の歌が無い様に思われます。是非歌が出来れば良いと思います。

【その他意見】

* 予算がないという問題を解決する方法は、市民参画にすれば変わるかもしれません。前例のない取り組みでも市民企画や行政と市民の連携であれば、様々な事業展開が可能です。例えば寄付やクラウドファンディングなどを利用すれば実現可能性が広がります。
* 清瀬市内で活動している団体、または催事などをリストアップして、冠事業として相応しいものか先方からの申請を待つのではなく、市側からも市民や団体に打診をするアクティビティが必要です。
* インターネット、SNSを今よりもっと活用したほうがよい。
* 清瀬には３大学が有り、若い人達が育っていますが、ある時学生さん達と話し合う機会があり、その時、思わぬ言葉が聞けました。清瀬って閉鎖的ですねと。これを機会に外に目を向け、耳を傾けていきたいと思った。
* 前回の４０周年は市政功労者の表彰のみで終わってしまったような印象があるので、当日舞台に上がっての表彰は必要最小限とし、あとは手渡しにするなど、表彰にかける時間は極力少なくする方がよいと思います。
* ５０周年記念ということで、やりたいことのアイデアはたくさん出ると思いますし、いろいろ楽しく本来は予算のことなど気にせず行ってほしいと思います。しかし、やはり全ては「予算ありき」というのが現実です。そこでこれから少子高齢化を迎え、ますます財政的にも厳しくなっていく自治体の大イベントだからこそ、これを機に真剣に市としての「新たな収入源」を検討していただきたいです。例えば、くまもんだとかひこにゃんだとか、ゆるキャラを売り出しそのグッズ販売などで収入を得るというのが前例として真っ先に浮かびますが、清瀬市はその路線はいまさらですし、キャラもにんにんくん？とかかなり厳しいと思われます…。なので、そういう路線ではなく、豊かな自然を象徴するような商品（はちみつやにんじんジャムといった食品以外でもっと収益になるもの）…そのあたりのアイデアは市民の方に募っていただきたいですが…を企画、商品化して50周年記念に売り出していただきたいです。また、具体的にダイレクトに記念事業運営の収入源となるような企画、イベントをもっといろいろ検討して、理想は「記念事業にかかる費用は記念事業で開催する企画で賄える」ぐらいにするべきだと思います。そのような運営の仕方に真剣に取り組まないと、予算はいくらあっても足りなくなりますし、これからの財政難時代にますます厳しい自治体となってしまうと思います。
* 実行委員会は「市民等企画事業」、推進委員会は「市企画事業」と「広報事業」を分担する解釈で良いでしょうか。(但し、広報のロゴマークの審査・決定は実行委員会が分担する)